小学校二・四年生「伝統的な言語文化」ワークシート①

名　前

声に出して、むかし話　や　古典　を読み、そのリズムをあじわいましょう。

★　声に出してなんども読んでおぼえ、ことばのひびきやリズムを楽しみながら言ってみましょう。

俳句

古池や　蛙飛びこむ　水の音　　松尾芭蕉

菜の花や　月は東に　日は西に　　与謝蕪村

雀の子　そこのけそこのけ　御馬が通る　　小林一茶

短歌

石走る　垂水の上の　さわらびの　萌え出づる春に　なりにけるかも　　志貴皇子

秋風に　たなびく雲の　絶え間より　もれ出づる月の　影のさやけさ　　藤原顕輔

★　次のことばから一つえらんでみじかい文を作り、声に出して読んでみましょう。

慣用句

火花をちらす（たがいにはげしくあらそう）

馬が合う（たがいの気もちがしっくりいく、気が合う）

ことわざ

花よりだんご（ただ見た目がいいものよりも、じっさいに　やくに立つものの方がよい）

さるも木からおちる（その道に長けている人でも、しっぱいすることはある）

故事成語

蛇足（ひつようのないものまでくわえて、全体をだめにしてしまうこと）

五十歩百歩（多少の差はあるが、それほど大きなちがいではないこと）

（例）がんばれ赤組、がんばれ白組。両チームのおうえんが、火花をちらしています。

★　ことばをもう一つえらんで、やってみましょう。

「じっくり　しっかり　くり返し」の十一ページを参考にしてください。